

第32回高知糖尿病チーム医療研修会のご案内

謹啓、初秋の候、皆様方におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。
第32回高知糖尿病チーム医療研修会をご案内致します。

今回の教育講演は、高知医療センター 総合周産期母子医療センター長兼産科長 林 和俊 先生から「産科診療における糖尿病診断の実際」、また、高知大学医学部麻酔科学・集中治療医学講座 矢田部 智昭 先生から「急性期における血糖管理」と題してご講演いただきます。

シンポジウムでは、県内各施設で糖尿病療養指導にご活躍の先生方の口述発表と総合討論を予定しております。糖尿病治療、指導に興味をお持ちの医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、栄養士、保健師、理学療法士、歯科衛生士等多数のご参加をお待ちしております。

尚、本研修会は、日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修会として〈第2群〉(糖尿病療養指導研修単位) 1単位を申請中です。

謹 白

第32回高知糖尿病チーム医療研修会
幹事 高知医療センター 段松 雅弘

記

日 時：平成26年11月9日（日） 13:00～17:00

場 所：高知市文化プラザ かるぽーと 大ホール

対 象：医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、
栄養士、保健師、理学療法士、歯科衛生士、その他医療スタッフ

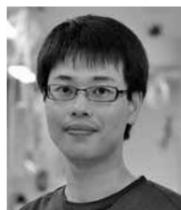
【講師プロフィール及び講演要旨】



「産科診療における糖尿病診断の実際」

林 和俊 先生(高知医療センター総合周産期母子医療センター長兼産科長)

東京女子医大名誉教授大森安恵先生によると、日本では1960年代初めまでは糖尿病の女性に対して多くのリスクのため、妊娠は許可されなかったという。欧米では1922年にインスリン療法が始まって以後、妊娠と糖尿病の研究が進んでいたにも拘らずである。日本は元来、伝統的な日本食が糖尿病発症予防に影響していたのか、妊娠可能年齢の若年糖尿病が少ない国だったようである。ところが徐々に進んできた食生活の欧米化から、この分野の臨床的重要性が高まってきたのである。糖尿病妊婦の妊娠前後の厳重な血糖コントロールの必要性は知られるようになったが、従来の妊娠糖尿病診断基準は周産期予後との関連に依拠したのではなく、将来的な糖尿病発症との関連に注目したものであった。2008年の国際多施設共同研究・HAPO study後、エビデンスに基づいた世界統一妊娠糖尿病診断基準が提唱された。我が国でも関連学会で協議の末、日本独自の診断基準ではなく、国際的な標準化を重視した新しい妊娠糖尿病診断基準が設定されたのである。それが「産婦人科診療ガイドライン」にも反映され、現在では全妊婦に妊娠糖尿病スクリーニングを実施することが推奨されている。その結果、高齢妊娠の増加と相まって、妊娠中に初めて糖尿病と診断される女性が増加している。今回の講演では、昨今の周産期医療の現状についても触れながら、産科医が日常臨床で実施している糖尿病診断を最新の診療ガイドラインに基づいてお話ししたい。



「急性期における血糖管理」

矢田部 智昭 先生(高知大学医学部麻酔科学・集中治療医学講座)

2001年に集中治療室の患者の血糖値を80-110mg/dlと厳格に管理するだけで死亡率を改善できるという報告がなされて以来、急性期の血糖管理に大きな注目が集まった。しかし、急性期患者の多くは鎮静下にあり、低血糖症状の発見が困難ため、厳格な管理によって低血糖発作が頻発し、逆に予後が悪くなることも報告された。現在は、2009年に発表されて多国間多施設共同研究の結果などから血糖値は150-200mg/dlが目標値として考えられている。また、急性期においても血糖変動を抑えることが予後改善につながる可能性も指摘されている。一方、手術室における血糖管理に関してはまだまだ研究が行われているとは言えないが、現在は、インスリン抵抗性の悪化を防ぐことを目的とした管理が注目されている。集中治療室、手術室における管理を中心に急性期における血糖管理における現状と問題点を紹介したい。

【プログラム】

12:00～ 受付

13:00～ 13:05 開会挨拶

第32回研修会幹事 段松 雅弘 先生(高知医療センター)

13:05～ 14:00 教育講演1 司 会 菅野 尚 先生(高知医療センター)

「産科診療における糖尿病診断の実際」

演 者 林 和俊 先生(高知医療センター 総合周産期母子医療センター長兼産科長)

14:00～ 15:00 シンポジウム「糖尿病療養指導の現状と実際」

司 会 津田 道子 先生(津田クリニック 医師)

渡邊 慶子 先生(高知医療センター 管理栄養士)

① 浜田 詩子 先生(土佐市民病院 看護師)

「地域での糖尿病二次予防への取り組み」

② 十萬 敬子 先生(高知医療センター 管理栄養士)

「糖尿病透析予防患者のInBody測定による検討」

③ 石園 麻耶 先生(高知記念病院 薬剤師)

「当院におけるSGLT2阻害薬の使用経験」

④ 片岡 友和 先生(高知高須病院 臨床検査技師)

「糖尿病性腎症のCKD4期・5期におけるHbA1c値とGA値の検討」

⑤ 船越 生吾 先生(高知大学医学部内分泌代謝・腎臓内科学 医師)

「当院(日本赤十字社和歌山医療センター)ERに救急搬送された低血糖症例の解析」

15:00～ 15:05 休憩

15:05～ 15:30 ポスターセッション(上記シンポジウムをポスターにて質疑応答)

15:30～ 16:00 総合討論

16:00～ 16:55 教育講演2 司 会 高田 浩史 先生(高知大学医学部内分泌代謝・腎臓内科学)

「急性期における血糖管理」

演 者 矢田部 智昭 先生(高知大学医学部麻酔科学・集中治療医学講座)

16:55～ 17:00 閉会挨拶

第32回研修会幹事 段松 雅弘 先生(高知医療センター)

参加申込書

高知糖尿病チーム医療研修会 事務局

〒781-5103 高知市大津乙2705-1

高知高須病院 栄養部

TEL 088-878-3377

FAX 088-878-3322

Email:dm-takasu@takasuhp.or.jp

※ この用紙に同一施設・複数名で、ご記名願います。

歯科医師会会員の先生方へ

ご出席の際には、日歯生涯研修事業ICカードを必ずご持参ください。

ICカードを忘れると、研修会の研修単位登録は自己申告で行うこととなります。

ご施設名： _____

ご施設名住所： 〒 _____

電話番号：() _____

- | | | | |
|------------|-------|-----|-------|
| 1. 申込み代表者名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 2. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 3. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 4. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 5. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 6. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 7. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 8. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 9. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 10. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |

講師の先生にお聞きしたい点、ご質問がありましたら事前にご記入ください。

足りない場合、用紙をコピーしてご記入の上、FAX してください。

【その他の連絡事項】

1. 参加費 お一人様 1,000円を受付にて申し受けます。
2. 参加申し込み方法 住所・氏名・施設名・職種・電話番号を記入の上、FAX又はE-mailにて申し込み願います。

3. 参加申込先 〒781-5103 高知市大津乙2705-1 高知高須病院 栄養部

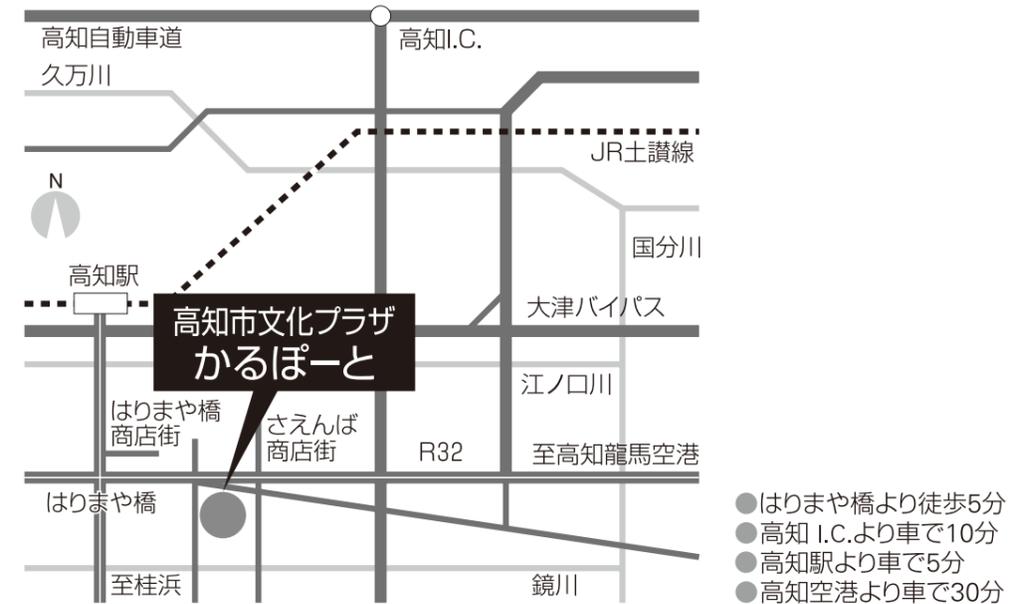
Fax 088-878-3322

TEL 088-878-3377

Email:dm-takasu@takasuhp.or.jp

4. 申込締切日 平成26年10月24日(金)
5. 当セミナーは、下記の研修認定単位を取得することができます。
 - ・日本医師会生涯教育講座(3.5単位)
 - ・日本薬剤師研修センター 認定単位(2単位)
 - ・日本病院薬剤師会生涯研修制度(2単位)
 - ・日本臨床衛生検査技師会履修点数(基礎-20点)
 - ・日本栄養士会 新生涯学習認定(1単位)
 - ・日本歯科医師会 生涯研修制度単位認定(4単位)
 - ・日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修<第2群> 1単位
 - ・日本糖尿病協会登録医・療養指導医制度のための講習会
 - ・日本糖尿病協会 歯科医師登録医のための講習会

6. 会場案内図



共催：高知糖尿病チーム医療研修会
高知県糖尿病対策推進会議
バイエル薬品株式会社
第一三共株式会社

(社)高知県栄養士会
(社)高知県薬剤師会
高知県病院薬剤師会

後援：(社)高知県看護協会
(社)高知県臨床検査技師会
(社)高知県理学療法士会
高知県医師会
高知県医師会糖尿病対策委員会
高知県歯科医師会